

2024

8 August

Rotary International District2740

GOVERNOR'S
MONTHLY LETTER

2024-25年度
国際ロータリー第2740地区
ガバナー 石坂 和彦

月
信
Vol. 2



おおむら夏越まつり 花火大会



2024-25 年度 国際ロータリーのテーマ



Index

国際ロータリー会長 message	1
Governor's message	2
地区委員長挨拶	3
ガバナーエレクト事務所開設ご案内	12
米山記念奨学事業セミナー報告	13
地区大会のご案内	14
文庫通信	15
編集後記	裏表紙

表紙説明 「おおむら夏越まつり 花火大会」

おおむら夏越まつりは、今年で45回目を迎える大村市の夏の風物詩です。8月1日の宵まつり（花火大会）に始まり、8月2日・3日が本まつりになります。JR大村駅広場に設置される提灯大やぐらは今年リニューアル。このやぐらの点灯を合図に、夏越総踊りなどのイベントが盛りだくさんで開催されます。JR大村駅前の夏越夢通りとアーケードには多くの露店が並び、大村市民だけでなく、近隣からも多くの方が来場されます。

国際ロータリー会長 メッセージ



2024-25 年度 RI 会長

ステファニー A. アーチック

ロータリーが最高の状態となるのは、クラブでインクルージョンと帰属意識が育まれたときです。実際、帰属意識こそが「ロータリーのマジック」そのものと言っても過言ではありません。

インクルージョンと帰属意識に焦点を当てれば、共通の目的のために結束しやすくなります。互いに支えあい、目標に集中することで、私たちの力が最大限に発揮されます。

これを後押しするのが、ロータリーの行動計画です。行動計画には、フィードバックを集め、クラブの強みと弱みを評価し、課題に取り組むために活用できるツールが含まれています。

変わりゆく世界で、クラブがじっと立ち止まっているわけにはいきません。とはいえ、私たちが取り入れる変化は、より大きなビジョンに向けて支えあうような、一貫した戦略的なものである必要があります。行動計画は、このビジョンに向けて取り組み、クラブ内で効果的な変化を生み出すのに役立ちます。行動計画に沿って地域社会からの提案に取り組むことで、すべてのロータリー会員にクラブで感じてもらいたい帰属意識が未長く育まれます。

だからこそ、多様性、公平さ、インクルージョンへのコミットメントを広げることが重要です。互いの幸せを支えあうことは、参加者の基盤を

広げる第一歩であり、この困難な時代に積極的平和を広げることが可能とします。

平和の構築は私たちの最優先事項の一つであり、そのための最も効果的な方法の一つはロータリー平和フェロシップです。平和フェロシップを通じて、平和と開発の専門家たちが紛争を予防し、終結させる方法を学びます。

フェロシップは、世界各地の名門大学にあるロータリー平和センターで提供され、これまでに1,800名以上のロータリー平和フェローが卒業してきました。また、オットー&フラン・ウォルター財団からの1,550万ドルのご寄付のおかげで、イスタンブールのバーチェシヒル大学に新設された平和センターでさらに多くの地域の平和構築者を支援できます。

新たなセンターの開設は非常に大きな達成であり、イスタンブールのセンターで来年にロータリー会長主催平和会議を開催できるのはとても光栄なことです。2月20日～22日に開かれるこの3日間の会議では、ロータリーファミリーが平和構築を推進するさまざまな方法に焦点を当てます。現在、この会議への登録を受け付けています。ご参加いただけることを願っております。

2025年ロータリー会長主催平和会議は、ロータリーの平和構築の取り組みにとって大きな可能性を秘めています。この可能性は皆さまのご支援があつてこそ実現します。

私たちは魔法の杖を振って呪文を唱えるだけで世界に平和をもたらしたり、ポリオを根絶したり、会員を増やしたりするわけではありません。それは皆さん次第です。プロジェクトを終えるたび、寄付するたび、新会員を迎えるたびに、皆さんはマジック（魔法）を生み出すのです。

私はロータリーファミリーを愛しており、皆さまも同じだと思います。だからこそ、共にすべてのクラブと地区を魅力的にしていくことができると、私は信じています。今年度、「ロータリーのマジック」で世界を変えていきましょう。

Governor's message

お陰様でスタートしました

—皆様方のご協力に感謝いたします—

2024-25年度 第2740地区 ガバナー 石坂 和彦

公式訪問がスタートしております。

もちろん大きな緊張感もありますが、ロータリー人生の中で、ガバナー年度で、一番の喜び・楽しみは地区内55ロータリークラブを訪問させていただくことです。本当に人生の中で最高の出来事だと思います。森地区幹事をはじめ同行の仲間達と共に、地元のガバナー補佐様のご報告とご案内を受けながら、クラブを訪問させて頂いております。本当にありがとうございます。10月8日まで続きます。

ガバナー月信7月号(Vol.1)に、今年度の国際ロータリーの動向並びに当第2740地区の基本方針・運営方針・重点項目を記させていただいております。この8月号では、その中からいくつか報告させていただきます。(順不同)

“ロータリーの価値の再発見!!!”は、国際ロータリーのテーマである『ロータリーのマジック』を受けての地区方針であります。2025年2月23日に、ポール・ハリスがロータリーを創始してちょうど120年という大きな節目を迎えます。ロータリーは、大きな時代の変化の中で、ぶれることなく継続すべきことを継続し、臆することなく変えるべきを変えてきたのであります。

この勇気こそロータリー120年の力であります。

変動性、不確実性、複雑性、曖昧性のVUCA(ブーカ)の時代と言われている現代社会は、今まではこうだったという事が時代にそぐわないことが多くなってきています。しっかりと現状を観察し、分析し、仮説を構築する逞しさが必要だと感じています。『ロータリー物語は書き換えられなければなりません。』まだ年度が始まったばかりです。楽しい魅力的なクラブづくりに会長幹事を先頭にクラブが一つにまとまって、邁進されていくことでしよう。

申すまでもなくロータリーは人生道場であり、様々な学びの宝庫であります。学びの中にロータリーがあるといっても過言ではないと感じております。地区やクラブで企画されているセミナー、IM、勉強会、奉仕事業、諸行事に積極的に参加いたしましょう。ロータリーの真剣さ誠実さを実感できます。

ガバナー補佐、各クラブ会長幹事、各部門地区委員長はじめロータリアンの皆様のリダーシップを、よろしく願いいたします。

今年度新たなチャレンジとして、ロータリーの輪

を広げる目的をもって衛星クラブの設立、ローターアクトクラブ設立、それぞれの連携に力を注ぎましょう。8月は会員増強・新クラブ結成推進月間であります。新鮮なロータリーのエネルギーが爆発する事を期待しております。

そして、世界のロータリーの悲願であるポリオ根絶への、最終最後の戦いの時です。そのために最大の力を出し切りましょう。

去る5月25日から31日にスリランカへの国際職業奉仕事前調査隊(森地区幹事をはじめ3名)がその使命を果たしてまいりました。当地区とスリランカの浅からぬご縁を生かした事業であります。新しい国際奉仕の在り方を掴めたら幸いです。本隊派遣は現地と最終調整をしており本年11月から12月頃と予定しています。国際職業奉仕事業につきましては2012年から大切に承継されてきた基金を活用させて頂いております。事業完了後の会員皆様への報告書が楽しみです。

更に、日本でのロータリー創始の心を象徴する“月桂樹プロジェクト”も始動しております。地区を超えた波が広がっております。

公共イメージの向上は、日々の実践活動の中で着実に図られています。

地区最大の行事である11月9日の地区大会も着々と帯屋実行委員長をはじめ、実行委員会を中心に準備が進んでおります。大村在住シンガーソングライターのタナカハルナさんの素敵な楽曲と共に地区大会を楽しみましょう。講演の企画も進んでいます。詳しくは14ページに記載しております、是非ご覧ください。会員お一人お一人のご参画をよろしく願いいたします。

三つの幸せという言葉があります。

自分でできる幸せ

与えてもらう幸せ

人に与えることができる幸せ

私たちはロータリアンです。ロータリーに誇りを持っています。

“人に与えることのできる幸せ”を実感しつつ、地域でそして世界で奉仕活動に励んでいます。

ロータリーの価値を再発見する1年としたい!

どうぞよろしく願いいたします。

地区委員長挨拶

RLI 推進委員会委員長

帯屋 徹

大村 RC



本年度 RLI 推進委員会委員長を務めさせていただきます、大村 RC の帯屋徹です。よろしくお祈いします。RLI 推進委員会は委員とファシリテーターの 20 名のメンバーで構成され各クラブへのロータリーリーダーシップ研修会 (RLI) の浸透と理解を深めるよう積極的に活動をいたしております。

特に本年も重点事業として RLI の ZOOM 方式による研修会を、Part I・Part II・Part III の 3 日間、月一回のペースで計画いたしております。ご案内しますので、是非各クラブからの参加をお願いします。(卒後研修としてファシリテーターの育成勉強会) も開催します。

国際ロータリーの方針では 2023 年 7 月よりロータリーの研修方法をトレーニング (研修) からラーニング (学び) へと変更する旨の通知が参っております。従来のトレーニング (研修) から参加者自身のラーニング (学び) がこれからの研修スタイルになります。

具体的にはロータリーの研修は、従来の講義スタイルからファシリテーションスタイルに変更になるということであり、RLI と同じ研修モデルと成ります。これに対応するには各クラブは 1~2 名程度のラーニングファシリテーターが必要とされています。ファシリテーターの育成が各クラブの緊急の課題に成っており、クラブに一人としても 55 人の仲間が必要です。是非各クラブの皆様には RLI 研修を受講いただき、共に学び各クラブのラーニングファシリテーターとして各クラブの発展に寄与頂きます様お祈いを申し上げます。尚 RLI のことがよくわからないなどのご質問があれば各クラブの例会時に時間を取って頂けましたら出前卓話などを致したく準備を致しております。

最後に成りますが 1 年間 RLI 推進委員会に対しご理解、協力いただきます様お祈いをして就任の挨拶といたします。

クラブ管理運営委員会委員長

野田 初憲

神埼 RC



昨年度に引き続き、第 2740 地区クラブ管理運営委員長を拝命いたしました神埼ロータリークラブの野田初憲です。

去る 2 月 18 日地区チーム研修セミナーにおいて委員長の委嘱状交付を受け、大変身の引き締まる思いと同時に、改めて重責をひしひしと実感しておりますが、精一杯務めていきたいと思ひます。

管理運営委員会の役割は、クラブの活動がより効果的・円滑に進むよう管理・運営を行うことであり、クラブの効率的な運営を通じてはじめて地域社会に奉仕を提供し、会員を維持し、クラブや地区のリーダーを生み出していく事ができると考えます。主な責務として、会員相互の役割を深めながら各委員会と連携し研鑽を高め明るく・楽しく・学びの場となる魅力ある活動ができるようなサポートの実施、多種多様な内容や形式を取り入れたコミュニケーションの向上につながる効果的な例会の開催、各クラブが抱える管理運営に関する疑問や問題点について情報収集・サポートに努め一緒に解決していくサポーターとしての役割、ファシリテーション・スキルの向上を目指し積極的な各種会合等への活用など、「クラブの効果的な管理運営」という事で多方面での活動に関連することから、他委員会との協力や情報共有は必要不可欠なものとなります。今後とも円滑なクラブ運営と、クラブの活性化につながるサポートが十分にできるよう積極的に取り組んでいきたいと考えております。

また、今年度は更なる革新性と柔軟性を持った委員会活動とするべく、4 つの重点取組事項を掲げています。

◎ロータリー会員へのアンケート調査実施により、更なる活動の充実・強化また、クラブの運営改善を図る

◎オープン例会 (一般参加) の開催により、ロータリー活動への理解や会員増強につながる取組み

◎クラウドファンディングによる新たな地域貢献活動の検討

◎D E I (多様性・公平さ・インクルージョン) の取組み

以上の重点取組についても、今後、協議・検討を図るとともに、他委員会との連携によって具現化できるよう尽力してまいります。

今後とも皆様方のご理解・ご協力を切にお願い申し上げ、委員長就任挨拶に代えさせていただきます。一年間よろしくお祈いします。

地区委員長挨拶

会員増強委員会委員長

久保 泰正

諫早西 RC



こんにちは。新年度が始まり、再び会員増強委員長を務めさせていただくこととなりました久保泰正です。昨年度は、皆様から多大なるご支援とご協力をいただき、心より感謝申し上げます。新年度も引き続き、皆様と共にロータリークラブの発展と地域社会への貢献に取り組めることを大変嬉しく思っております。

昨年度は、各クラブのニーズや課題を理解するために努め、新会員研修や意識調査アンケートを実施しました。新会員の皆様にはロータリーの理念や活動の意義を深く理解していただき、積極的な参加を促す環境を整えることに尽力しました。しかし、目標としていた成果を達成することができませんでした。

新年度は、昨年度の反省を踏まえ、より具体的で実効性のある施策を通じて成果を上げることを目指します。まず、クラブ活性化セミナーの内容をさらに充実させ、ロータリーの魅力を広く伝える活動を積極的に展開いたします。

さらに、地区会員増強委員会として、各クラブと連携を強化し、クラブのニーズに応じたプログラムやセミナーを実施することで、新たな会員の入会を促進してまいります。多様性とインクルージョンを重視し、様々な背景や専門知識を持つ方々が私たちのロータリークラブに参加できるよう努力いたします。

具体的には、クラブのニーズに応じたプログラムを策定し、実行することで、新規会員の獲得と既存会員のエンゲージメント向上を図ります。また、各クラブの活動をサポートし、共に成長するための仕組みを整えることに注力します。

皆様からのご意見やご提案を積極的に取り入れ、共により良い未来を築いていくための取り組みを進めてまいります。私たちのロータリークラブをさらに発展させ、地域社会における影響力を高めるために、どうぞ皆様のご協力をよろしくお願い申し上げます。

衛星クラブ小委員会委員長

渡会 祐二

佐世保北 RC



今年度より新設されました地区衛星クラブ小委員会の2024-25年度の委員長を拝命しました、佐世保北RCの渡会祐二（わたらい ゆうじ）と申します。どうぞよろしくお願い致します。

衛星クラブについては、昨年度の緒方ガバナーの目標に掲げられ、公式訪問等においてもご説明がなされており、すでにご存じとは思いますが、衛星クラブとは、ロータリークラブの新しい形態で、スポンサークラブに属するクラブのことです。衛星クラブの会員は正式なロータリアンであり、スポンサークラブの会員です（衛星クラブの会員数は、スポンサークラブの会員数にカウントできるということです）。衛星クラブは、スポンサークラブの支援を受けて設立され、8人以上の会員で成立します。詳しくは、ロータリーの友2021年8月号や、ガバナー月信2024年3月号などをご覧ください。

第2740地区では、私が所属する佐世保北RCがスポンサークラブである「佐世保北フレンドシップロータリー衛星クラブ」が唯一の衛星クラブ（2022年4月16日設立）です。私が設立当時にクラブ会長を務めていたご縁もあり、今回、石坂ガバナーより委員長を任命頂いたと承知しております。

実際に衛星クラブを設立し、その活動に触れて感じることは、ただ単に新しいクラブができてメンバーが増えたということだけでなく、衛星クラブの存在がスポンサークラブに対する刺激・活性化にも繋がっているということです。

今年度、石坂ガバナーは地区重点事業の一つに、「会員増強に力を尽くそう」を掲げられ、その中の目標に3つの衛星クラブの新設をあげておられます。ガバナーのご意向を実現できますよう、新しい衛星クラブ設立・運営の支援・サポートを行っていきたく存じます。皆様のクラブも、クラブの会員増強・活性化の一助として、ぜひ、衛星クラブ設立をご検討いただければ幸いです。

それでは、一年間、どうぞよろしくお願い致します。

地区委員長挨拶

公共イメージ委員会委員長

公門 新治

佐世保北 RC



今年度より公共イメージ委員長を仰せつかりました。佐世保北 RC 公門(くもん)です。ロータリー歴は9年です。公共イメージ委員会では立ち上げ時より委員として7年間活動させていただきました。委員長として昨年度より引き続き2年目となります。1年間宜しくお願い致します。

人びとが「ロータリー」と聞いて思い浮かべるイメージ、それがロータリーの「公共イメージ」です。「ロータリーを知っている」という認知は出発点にすぎません。ロータリーの公共イメージは、会員の行動や、クラブが実施する活動とそのインパクトによって形づくられます。

公共イメージが強く、好ましいものであれば、クラブにも多くのメリットがあります。ロータリーへの認知と理解を高めることで、入会への関心が高まり、会員としての誇りが生まれ、人びとが参加・寄付し、数多くの団体の中でクラブが際立った存在となります。

ロータリーでは、個々の会員がブランドの推進者となります。「世界を変える行動人」であるということを忘れずに活動しましょう。具体的には以下のような活動を行います。

- ・ソーシャルメディアやそのほかのメディアを通じて情報を発信する
- ・ロータリー外へのコミュニケーションを行う
- ・ブランドリソースセンターを活用する
- ・奉仕事例、学友の活動など、ロータリーの活動について、多くの人びとに伝える

また、昨年度は当地区として初のポリオデーの活動である九州4地区合同公共イメージ向上事業が成功裏に終わりました。今年度は地区単独ではありますが、継続事業として、公共イメージ向上に繋げたいです。当委員会は単体では機能しにくいので、各部門と連携して活動したいと思います。会員の皆様にはご理解ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

DX 小委員会委員長

原田 徹

雲仙 諫早南 RC



皆様こんにちは。今年度より新設されました DX 小委員会の委員長を拝命しました原田徹と申します。所属クラブは雲仙 諫早南ロータリークラブ、ロータリー歴は11年です。

新設の委員会ということもあり、手探りでスタートになります。

DX (デジタルトランスフォーメーション) 推進の目的は、ロータリー活動の効率化やコミュニケーションの向上、会員やコミュニティとの連携強化などを図ることで、組織の使命達成を支援する重要な取り組みとなります。もう少し判りやすく言えば、いつの間にかロータリー活動がしやすくなっていると実感していただけるように縁の下の力持ち的な活動を行う委員会となります。

初年度は各方面にアンケート等を実施し、地区内の実態調査と把握を行い、最適な DX 推進の方針と具体的なデジタル技術の活用を検討する準備の年度といたします。とはいえ、他地区と比較して大幅に遅れている分野でございまして、平行して導入が可能なのは前倒して積極的に取り込みながら、2740 地区に山積された問題・課題を DX で1つずつ確実に解決していければと思います。

3Yaer-Targets に代表されるよう、ロータリーの使命をより多くの人々に伝え、地域社会や国際社会により奉仕するために、デジタルツールを駆使してコミュニケーションを強化し、プロジェクトの計画や実行をより効率化することが重要といった風に大きな変革の時代になってきました。

地区運営及びクラブ運営が効率化され、より多く皆様の奉仕活動を下支えできる委員会にしていきたいと考えておりますので、ご理解とご協力を賜りますようお願いいたします。

地区委員長挨拶

職業奉仕委員会委員長

矢野 京子

諫早北 RC



今年度2年目となります地区職業奉仕委員長を務めさせていただきます。
前年度は初めての経験ばかりで自分自身がどれだけの事が出来るのか挑戦の年度だったように思います。地区委員会合同での職業奉仕セミナーと毎月1回の「新入会員へのWEBディスカッション」は少しハードでありました。
今年度はもう少し事業を減らし、しっかりと内容を深める事に重視したいと考えました。
毎年、新入会員が入って来ては3年未満で退会していく。この状況を何とか食い止める為に職業奉仕委員会では何が出来るのか？委員会で話し合いロータリーの理念である『職業奉仕』をしっかりと理解して貰う必要があると考えました。ここ数年の会員で職業奉仕が解らないと言うお声もたくさん頂きました。ここにもしっかりとフォローをしていきたいと言う思いで今年度は「職業奉仕WEB勉強会」として全会員対象に2か月に1度の奇数月にWEBにて勉強会を開く事を実行します。
たくさんのご参加をお待ちして一人でも職業奉仕を理解して頂けるよう努めて参ります。職業奉仕はロータリーの根幹です。ロータリーについてお勉強をしていきましょう。皆さんのご参加をお待ちしています。

社会奉仕委員会委員長

高比良 耕一

佐世保東南 RC



2024-25年度 地区社会奉仕委員長を務めさせて頂く事になりました。
佐世保東南ロータリークラブの高比良耕一です。
RCに入会して7年目の若輩者ですが、各55クラブ奉仕プロジェクトに所属される皆様、この一年間ご協力のほど何卒よろしくお願い致します。
まず、年間活動計画より、継続事業であります、毎年9月第二日曜日 地域清掃活動が1つ目、2つ目は社会奉仕委員会セミナー開催。
近年はコロナ禍でセミナーが行われていなかったので、今年は11月24日(日)・場所を「プラザおおむら」にて【部活動地域移行周知活動フォーラム】に関する勉強会を職業奉仕と連携し、進めてさせていただきます。
3つ目【食育奉仕活動】、4つ目【ひとり親奉仕活動】では、匿名でのひとり親世帯へのアンケート実施。今後、どのような支援が必要かを(探る)調べて行きます。
5つ目、最後に各クラブの社会奉仕活動の今の現状報告を頂き、冊子は作らず活動公共イメージをDXデジタル化を推進し、アーカイブとして残して行き、各クラブの活動に役立てていただく。
この活動を通して地域の皆様の理解や関心を促して行きたいと考えてます。

地区委員長挨拶

ロータリーファミリー委員会
委員長

徳川 清隆

唐津 RC



昨年度、新しく組織された委員会「ロータリーファミリー委員会」の委員長を拝命し2年目となります。

このロータリーファミリー委員会は、ロータリー奉仕プロジェクトの青少年奉仕部門『インターアクト委員会』『ロータアクト委員会』『国際青少年交換委員会』『RYLA委員会』のそれぞれのプロジェクトについて、強い連携が取れるようサポートをし、ロータリーの青少年奉仕活動を側面から担う青少年奉仕部門の委員会と捉えております。

ロータリーファミリーとは、ロータリーの様々なプログラムに参加された方々、また、協力いただいた方々を総称しますが、当地区では、現在、インターアクト、ロータアクト、国際青少年交換生、RYLA参加者、米山記念奨学生、ロータリー奨学生、ロータリー事業の参加ボランティア等を指すこととしています。

この方々と、ロータリーの奉仕理念のもと、青少年奉仕活動に充実と拡がりを持たせ、ロータリーとの深い関係性を作ることで、ロータリアンと青少年が親密な関係を構築しロータリーの将来に向き合うことが重要と考えます。

青少年奉仕は、青少年にロータリーの奉仕理念を理解していただくことが重要で、ロータリーへの共感が持てること、そして、ロータリアンが望む次世代へのリーダー育成を目的とします。

今年度、委員会は青少年奉仕部門の各委員会が連携した事業が可能となるようサポートし、ロータリーの奉仕理想を掲げ青少年奉仕部門だけでなく当地区全体の発展を願い活動します。

最後に、皆様のご協力ご支援を賜りながらロータリー活動と地区の発展に努力いたしますので宜しくお願いします。

ローターアクト委員会委員長

安永 恵子

佐賀 RC



ローターアクターは、ロータリークラブの正会員であり、ローターアクトクラブも国際ロータリーに加盟することになり、ロータリアンと対等の地位を与えられています。また、ローターアクトクラブはロータリーファミリー構想において中心的役割を担っています。

今年度、石坂ガバナーは、地区重点事業の一つとして、ローターアクトクラブを育てることを挙げられています。ローターアクトの活動が活性化されることは、ひいてはロータリーの組織力拡大に繋がると認識しております。ローターアクターがロータリーの活動を理解し、ロータリアンへの扉を開けてくれることを目指して活動して参る所存です。

ローターアクトは18歳以上の若者が構成メンバーであるため、大学卒業や転職、人事異動等のライフイベントの時期と重なり、在籍期間は長くありません。そのため、長期的なビジョンを描くことが難しいという課題があります。また、ロータリークラブと比較すると財政基盤は脆弱であり、経済的問題が活動に影響を与えている点は否めません。今年度は、ローターアクトが活動の幅を広げることができるよう、このような課題を克服していくことを目標としています。

そして、ロータリーファミリー構想を実現するべく、ローターアクトが具体的にどのような活動をしているかロータリアンの皆様に知っていただく機会を増やすことを予定しております。是非、各クラブの例会や地区行事に足を運んでいただき、ローターアクターと交流を深めていただきたいと思います。

このような委員会を統括する重責を全うできるよう、微力ではございますが、皆様のご指導を賜りながら全力を尽くさせていただきます。

地区委員長挨拶

インターアクト委員会委員長

川島 雄輔

唐津RC



昨年度に引き続き今年度も地区インターアクト委員長を拝命させて頂きました。何もかもが初めてだった昨年度よりは、多少なりとも全体像が見えてきた気がしますので、しっかりと年間を見通して計画を立て、一つ一つの活動を丁寧に実施していきたいと思っております。

インターアクト委員会の活動は、8月の年次大会、10月の前期指導者研修及び2月の後期指導者研修が柱となります。

年次大会では、地区の関与を増やし、表彰に関しては主体となって行っていきます。特に表彰へのエントリーに際して基準を明示し、これを各インターアクトクラブにおいて活動の指針としてもらいます。さらに、各インターアクトクラブが年次大会での表彰を意識してくれるようになれば、活動自体が活性化していくと考えています。

指導者研修では、指導者を育てる研修という原点に還りつつ、前期と後期を連動させ、年間をとおして、さらには向こう数年も見据えて、一貫した方向性を示せる研修にしていきます。

加えて、ロータリーファミリー委員会の主導による、ローターアクト、RYLA、国際青少年交換留学生らと合同での研修ないしはイベントを企画します。インターアクトだけで彼ら彼女らの活動を終わらせず、卒業後もRYLAやローターアクトに参加し、ゆくゆくはロータリアンとなってくれるきっかけを与えられたらと思います。

その他にも昨年度に引き続き、各インターアクトクラブ同士が交流を持ち、定期的につながっていきける方法を模索し、地区全体としてインターアクトクラブの活動が盛り上がるよう努めていきます。

今年度も皆様にはたくさんのご協力をお願いすることになると思いますが、何卒宜しくお願いいたします。

RYLA委員会委員長

太田 陽子

大村RC



本年度のRYLAは、昨年度に引き続き、「単年度クラブ持ち回り方式」ではなく、「地区委員会主導方式」での事業を開催いたします。

その理由の一つは、近年のロータリークラブは、会員の減少や、高齢化といった問題を抱えている事もあり、以前のような単年度クラブ持ち回り方式での事業開催は、困難を極めておりました。例えば受講者集めの困難、セミナーの準備、開催場所、運営の人的・経済的困難などが要因で引き受けてくれるクラブを探し、決定するまでに時間を要すること。

もう一つの大きな理由は、若者だけでなく、ロータリアンも学べる場が必要ではないかと考えました。今の情報社会で生きる若者たちは、明らかに昭和生まれの私たちとは価値観が違ってきています。ロータリアンと若者とで語り合い、お互いが心を開き、本音を語り合うことのできる場（意見交換の場）を年に数回持つことで、彼らが思うリーダー像が見えてきます。そして彼らに、自主的にRYLAを計画・運営してもらい、委員会がサポート側に就くことで、彼らはリーダーとして自分に何が足りなくて、何を学ぶ必要があるのかを悟ります。

そして、仲間との絆、率先して動くことの楽しさを五感で感じ取ってもらう。本年度もそのような、将来を担う、若き地域リーダーを育成するRYLA事業を開催したいと考えます。

最後に、ロータリアンの皆様、身近にいる若者をRYLAセミナーに参加させて頂けないでしょうか。また、青少年育成事業にご興味のあるロータリアンの皆様、若者たちと委員会メンバーと一緒にRYLAを楽しみましょう。多くの皆様のご参加をお待ちしております。

地区委員長挨拶

国際青少年交換委員会委員長

徳永 隆信

有田 RC



国際ロータリークラブ青少年交換委員会の委員長としてご挨拶いたします。今年度は昨年度に引き続き、二年目の大役となります。昨年度は多くの皆様のご尽力を賜り、誠にありがとうございました。委員会としても紆余曲折はありましたが、大きな飛躍の一年になったと感じております。

昨年度は、コロナも収束し、社会的にも交換委員会としても本格的に活動を再開した一年となりました。コロナ禍においてネット環境も飛躍的に進歩し、当委員会も LINEWORKS を使い、情報共有や意思疎通がしやすい環境を整えることができました。

それにより、これまでは語学スキル向上と書類作成だけで忙殺されていた月に1度のオリエンテーションも、様々な意見を集約できるようになり、海外でのコミュニケーション手段の考察や日本料理教室など、語学留学というよりロータリー親善大使の心得まで伝えることができるようになりました。

昨年度は委員会自体を停止するという瀬戸際まで追い込まれた状態から、何が足りなかったかを考え、広報・発信が疎かだったと反省に至りました。そして、委員会メンバーや保護者・候補生・インバウンド生一丸となって4月21日にセミナーを開催することとなり、参加者アンケートでは86%の方に満足・大変満足と回答をいただき、お陰で窮地を脱することができました。

セミナーでお話ししましたが、新会員増強にも、ご子を国際的感覚を持たせたい経営者に響く制度であると確信しております。

今年度は、セミナーで手応えのあったクラブのサポートを増強ポイントとしながら、地区ロータリアン皆様の浄財を有意義に活用したいと考えています。また、一年皆様の期待に応えられるよう、委員一同頑張りたいと思います。どうぞよろしく願いいたします。

ロータリー財団委員会委員長

岡村 康司

長崎南 RC



2024-25年度のロータリー財団委員長を拝命しました岡村です。

2期6年最後の1年になります。

例えば6年前当時の千葉憲哉ガバナーエレクトから委員長職を仰せつかり、当時は財団事業の右も左もわからない文字どおり右往左往で20名の財団スタッフと一緒にやってまいりました。

就任早々コロナに襲われ2つの大きな事業の財団セミナーと補助金管理セミナーは2020年と2021年は開催を見送りましたが、コロナ禍の中でもグローバル補助金奨学生の募集・選考・面接はZOOMを使ってやり抜いたことは委員会として誇れることだと思っています。

これまで多くの優秀な奨学生を海外の大学院や研究所に輩出しました。

また、国際支援ではネパールでの「水と衛生」、モンゴルでは「口蓋裂の医療提供」タイでは「少数民族アカ族子供の識字向上支援」など多くの国際奉仕を行い、今年度最後の年を迎えるにあたり地区内のクラブにおいても国際支援事業ができるように補助金事業の拡充を図っていきたいと思っています。

6年間の財団委員長のラストイヤーをこの石坂和彦ガバナー年度で締めくくりたいと思います。

引き続き2740地区55クラブのメンバーの方々のご支援ご協力をお願い致します。

地区委員長挨拶

補助金委員会委員長

西川 義文

大村 RC



今年度、補助金委員長に拝命された西川義文と申します。補助金委員会の中に次の3つの小委員会が配置され、この3小委員会で委員会に与えられた活動を行っています。

① 財団奨学・学友小委員会

小委員長に喜多清基君（島原 RC）を中心に、ロータリー財団の7つの重点項目に沿った奉仕活動のためにグローバル補助金を使つての奨学生選考を行い2024-25年度にはポルトガルのリスボン大学院へ高尾由香さん、イギリスのロンドン大学医学部修士課程へ清水真澄さんが合格され、間もなく出発されます。

世界的な物価高と日本の円安の影響で為替相場が極端な円安で、海外での学びや生活に、大きく不利に働いています。

2024-25年度よりグローバル補助金を30,000ドルから40,000ドルとし、財政支援の強化を図っています。

② グローバル補助金・平和フェロー小委員会

小委員長に古川尋美君（佐賀南 RC）を中心に各クラブからのグローバル補助金の申請や承認された補助金事業の報告書送付という終結までをTRFの指導に基づき対応しています。

同様に地区補助金を使つての海外地区クラブとの国際奉仕への支援も行っています。

また、国際紛争の解決等の専門人として担う平和フェローの募集やフェローとの交流に努めるようしています。

2023年度よりのフィリピンのマカティ地区のロータリークラブを共同者として、佐世保北クラブがグローバル補助金を申請して、近郊農村地区の農業経営近代化と所得向上をソーラー発電システムにて、農水動の改善にチャレンジされます。

③ 地区補助金小委員会

小委員長に松尾延大君（長崎南 RC）を中心に各クラブが行う地区補助金を使つての奉仕事業をTRFへ申請し、完了を報告するまでの間の支援や多様多様なクラブからの対応に精一杯協働にて、各クラブが行う地区補助金を利用しての奉仕活動を地区委員会として協力して行います。

皆様からの貴重な年次寄付や特定寄付を2740地区で有効に使えるよう3小委員会頑張ります。

ロータリー財団への寄付は地元地域を含む世界中で困っている人々のために有効に使われるよう、補助金委員会として精一杯務めます。

資金推進委員会委員長

藤田 昭比古

島原 RC



昨年に引き続き、2024年度、第2740地区資金推進委員会委員長を仰せつかりました、島原ロータリークラブの藤田昭比古と申します。どうぞよろしく願いいたします。

当委員会はロータリー活動を資金面から支えている「ロータリー財団」に対する寄付を推進する委員会であり、地区が設定した寄付目標（一人当たり年間\$150、ポリオ根絶支援など）にしたがって、の金額を達成できるように支援する活動を行ってまいります。

皆様から頂いたご寄附の90%以上が奉仕プロジェクトに直接生かされます。

ロータリークラブは発展途上国の平和活動に携わる人材を育成するなど持続可能な影響をもたらしています。またポリオ根絶活動においても予防接種活動を通じて発症数を99.9%減少させました。わずかな寄付で一人の子供の命を救うことができます。

ロータリーがポリオ撲滅に投入する資金に対してビル&メリнда・ゲイツ財団が2倍の額を上乗せするため、ご寄附が3倍になってポリオ撲滅活動に生かされます。

皆様からのご寄附は地域社会や国際貢献に大きく貢献しています。ポリオ根絶の達成、米山奨学会への積極的な支援のためにも、皆様のご理解ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

地区委員長挨拶

ポリオプラス委員会委員長

吉岡 義治

佐賀南 RC



本年度、ポリオプラス委員会委員長を務めさせていただく吉岡義治です。

職業は薬剤師です。

今までの国際奉仕での VTT（ボケーションナル・トレーニング・チーム）活動、RLI 研修での経験を生かし、実のある委員会にできたらと思っております。

よろしくお願いたします。

本年度地区運営方針の”一円融合“の中の④に『世界を意識する活動』とあり、その中に、ポリオデー（10月24日）への参画（ポリオ映画の視聴等々）、そして、地区重点事業に、『ポリオ根絶を徹底して成し遂げよう。力を抜いたら危険！』とあります。

今年度、当地区がポリオ撲滅に力を入れていることがお分かりいただけるのではないかと思います。

今から30年前までは、年間35万人以上の子どもがポリオに罹患し、麻痺を発症したり、亡くなったりしていました。ロータリー財団がポリオに対し、最初に補助金を授与したのは1930年です。1985年にポリオプラス・プログラムを開始し、1988年ユニセフ・WHOと共に地球上からポリオを根絶することを目指す「世界ポリオ根絶推進活動：GPEI」がスタートしました。以来25億人の子どもたちがワクチンを接種し、99.9%まで減らすことができました。

現在、ポリオウイルス（野生株）が残る国は世界でもわずか、あと一歩のところまでできています。

今、活動を止めてしまうと、今後10年以内に年間20万件以上の症例数が増える可能性があると言われております。

世界のどこかにウイルスが存在する限り、すでに野生株の存在しない国の子どもたちも再び感染の危機にさらされます。

感染のない国でも、ワクチン接種をし続ける必要があるのはこのためです。

そのためには、莫大な資金が必要となります。

どんなに立派な活動をしようとしても、会員の皆様方の浄財の寄付がないと成り立ちません。

皆様方のご理解を得るために、クラブ訪問ができればと思います。

資金管理委員会委員長

香月 章彦

佐世保中央 RC



ロータリー財団委員会委員兼ねて資金管理委員会委員長の佐世保中央ロータリークラブ所属の香月章彦です。

2023-24年度から引き続き委員長を拝命することになりました。

2年目ではございますが、まだまだロータリー財団委員会のことも含めて、理解不足のこと多々ございますが、委員会の諸先輩にご意見を頂きながら、会務を進めて行ければと考えています。

当委員会の仕事内容は、地区補助金、財団補助金を利用するロータリアンに向けて、財団の事業の周知と利用の推進を図ることと伺っております。

元はといえば補助金は会員の皆様方が支出した浄財です。その補助金の利用に関しては、RI及び財団の公正で明瞭な会計ルールの下に厳格に行いますが、それが利用の促進を妨げないよう配慮していきたいと思っております。

宜しくご協力のほどお願い致します。

地区委員長挨拶

米山記念奨学委員会委員長

高谷 信一

長崎出島 RC



2024-25 年度第 2740 地区米山記念奨学委員会委員長を拝命しました長崎出島 RC の高谷信一と申します。今年 1 年間何卒よろしくお願ひいたします。今般は貴重な経験を積む機会を頂き大変感謝しております。

さて、米山記念奨学事業は日本全国のロータリー合同事業で、日本国内において勉学、研究を行う外国人留学生を支援する奨学事業であり、最大の特徴はお世話クラブとカウンセラー制度です。単に奨学金を支給するだけではなく、奨学生がロータリーの例会等各種事業に参加し、ロータリアンとの交流を通じて、ロータリーへの理解を深めると同時に、日本の文化・習慣等を学び、将来、母国と日本との懸け橋となり、国際親善と平和とに寄与する人材として育てることを目標としております。

2024-25 年度、当地区では新規、継続を合わせて計 16 名の奨学生をお世話いたします。これにそれぞれのお世話クラブ、カウンセラー、並びにアメリア会長を始めとする地区の米山学友を我々 13 名の地区委員がみな一丸となってサポートさせていただきます。

さらに今年度は本多、本村両ガバナー補佐に地区委員を兼務して頂いておりますので、関係する皆様のご指導も仰ぎつつ、地区との連携も密に委員会活動を盛り上げていきたいと考えております。

米山記念奨学事業は皆様の貴重な寄付により成り立っております。一人でも多くの奨学生を採用できるよう、石坂ガバナーが掲げる一人当たり寄付目標金額 16,000 円を達成したいと考えております。目標達成のため、我々委員会としては地区の皆さまに本事業をより深く理解していただき、また、本事業の素晴らしさを知っていただくため努力いたします。ご協力のほど何卒よろしくお願ひいたします。

最後になりますが、念願であった米山梅吉記念館への研修旅行を実現する等、地区委員会の運営に関して長年に渡り多大な貢献をしていただいた諫早北 RC 松田洋一委員長へ謝辞をささげ、私の就任挨拶とさせていただきます。

ガバナーエレクト事務所開設のご案内

国際ロータリー第 2740 地区
ガバナーエレクト 辻 幸徳
次期地区幹事 中島 幸利

国際ロータリー第 2740 地区ガバナーエレクト事務所を下記の通り開設致しました。
何卒、ご指導ご協力を賜りますよう宜しくお願ひ申し上げます。

記

- ◆事務所：〒 847-0012 佐賀県唐津市大名小路 1-54 唐津商工会館地下 1 階
- ◆TEL：0955-53-9061
- ◆FAX：0955-53-9062
- ◆E-mail：ri2740tsuji@vc.people-i.ne.jp
- ◆執務時間：10:00～16:00（月～金曜日）※土曜日・日曜・祝日休ませていただきます。
- ◆事務局長：福岡 修
- ◆副事務局長：太田 年一 ・ 染谷悦之
- ◆事務局：笹川 朝美

米山記念奨学事業セミナー報告

米山記念奨学委員会 委員 八坂 邦弘 (長崎みなと RC)

2024-25 年度米山記念奨学事業セミナー



2024年6月22日(土)13時より大村市中地区公民館大会議室にて、国際ロータリー2740地区2024-25年度米山記念奨学事業セミナーが各クラブの次年度会長、幹事、米山記念奨学委員長にお越しいただき開催されました。

2024-25年度石坂和彦ガバナーが挨拶で米山事業に対する思いを、そして米山記念奨学会常務理事の駒井英基パストガバナーが米山奨学事業の現状、意義などそれぞれ熱く語られた後、高谷信一米山記念奨学地区委員長が当地区における寄付金の現状を話し、出席された皆様に米山奨学事業の大切さと寄付の必要性が伝わったことだと思います。

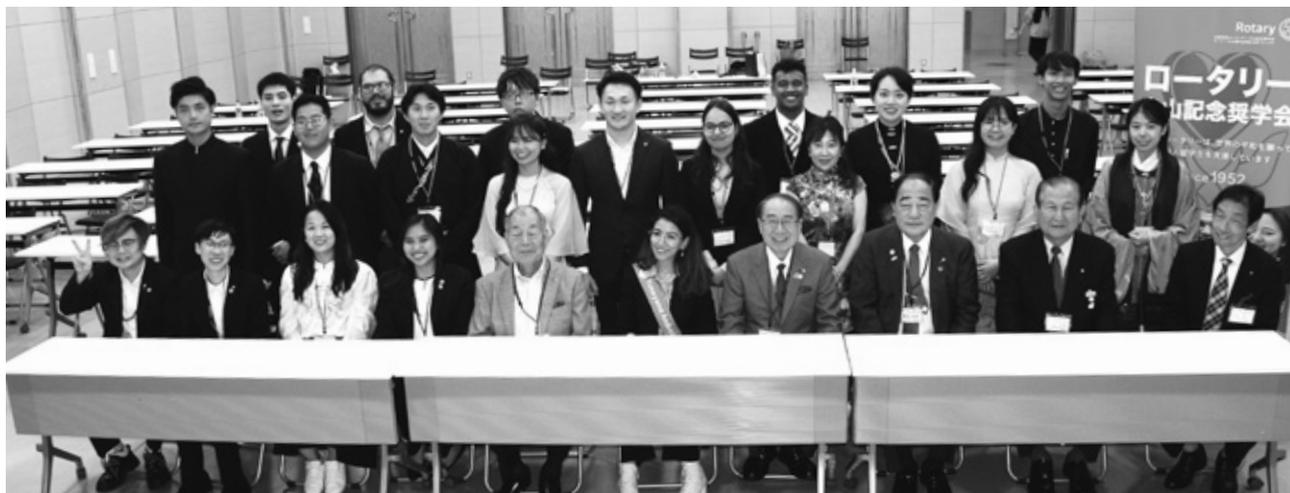
20分の休憩をはさんだ後の講演では、第5代よねやま親善大使イメン・ジェブリさんが生まれ故郷のチュニジアの話、夢の話、日本への想い、ロー



タリー米山記念奨学会との関わりで自分に自信を持つことができ、他人を助けることの大切さを知り、お父さんを亡くしたときにクラブカウンセラーが親代わりになってくれたことに感謝し、この素晴らしい事業を広めるために米山親善大使になることを決めたと話され、最後に奨学生に向けてメッセージを託してくれました。

その後、当地区の16名の奨学生紹介、学友会会長のリズキー・アメリアさんによる学友会の案内、本村一地区委員よりの改めての寄付のお願いをへて、米山記念奨学会評議員の花島光喜パストガバナーに総評をいただき閉会となりました。

米山記念奨学事業はロータリークラブの使命、理念を分かち合える仲間を増やすことができる大切な事業です。今後とも皆様のご支援ご協力をお願いいたします。



国際ロータリー第2740地区 2024-25年度

地区大会



2024年11月8日(金)・9日(土)

本会議会場 シーハットおおむら 懇親会会場 ホテルグランドパレス諫早



第2740地区ガバナー
石坂 和彦



大村RC会長
大塚 真一



地区大会実行委員長
帯屋 徹

地区大会テーマ 笑顔溢れるロータリー ～音楽のマジック・青少年の力～

国際ロータリー第2740地区の2024-25年度地区大会を石坂和彦ガバナーのもと、大村市で開催する運びとなりました。今回は、大村市の協力を得まして、共催という画期的体制で実施させていただきます。オープニングでは、大村市出身の歌手、タナカハルナさんによる生の歌声で皆様を歓迎いたします。音楽の力を最大限に感じていただける大会にしたいと思っております。

また、本年度は、『ロータリーの価値の再発見 ―ロータリーを語り合おう― “一円融合”』という地区テーマを掲げております。世界中の国は一つの円の中にいます。互いの違いを認め合い、受け入れ合い、尊重し合うことが、平和につながります。会員一人一人が主役です。

ロータリーの会員であることの喜びを感じる大会を、みんなの力で作り上げましょう。

皆様のご参加を心よりお待ちしております。

Rotary  国際ロータリー第2740地区 ホストクラブ:大村ロータリークラブ

国際ロータリー第2740地区 2024-25年度 地区大会事務局
〒856-0832 長崎県大村市本町458番地2 中心市街地複合ビル1階

文庫通信

ロータリー文庫 <https://www.rotary-bunko.gr.jp/>



お問い合わせ

🏠 ホーム
HOME

🔍 書籍検索
Search

📄 利用案内
Information

🗨️ よくある質問
FAQ

🗨️ 文庫について
About us



文庫通信 387号：日本のロータリー 100年

クラブ年史 100周年記念誌 [100年史] -/ 大阪 R.C. 2023 417P

クラブ年史 100周年記念誌 [奉仕の道 100年] -/ 東京 R.C. 2021 107P

●ロータリー日本 100年史 本誌 2021 305P

●ロータリー日本 100年史「100人のロータリアン ロータリーの本棚」 2021 283P

●ロータリー日本 100年史「年表・資料」 2021 177P

●日本分割推移図（地区変遷）ロータリー日本 100周年年表・資料より抜粋 2021 2P

●印発行：ロータリーの友・ロータリー日本 100年史編纂委員会

◎日本のロータリー 100周年 ビジョンレポート 2020 アンケート結果報告書 2021 539P

◎日本のロータリー 100周年 ビジョンレポート 2020 本編 2021 65P

◎印発行：日本のロータリー 100周年実行委員会 ビジョン策定委員会

日本のロータリー 100周年に寄せて 国際ロータリーの変質〈講演・卓話集〉

新藤信之/- 2021 117P

〒105-0013 東京都港区浜松町2丁目7番16号 第3小森谷ビル別館6階

TEL：03（3433）6456、FAX：03（3459）7506

PDFの閲覧には「ユーザー名」「パスワード」が必要です。

ご不明の場合は、各事務所またはロータリー文庫にお問い合わせください。

—お詫びと訂正—

ガバナー月信 No.1（7月号）の下記の部分を訂正して深くお詫び申し上げます。

・P.9 本多ガバナー補佐のクラブ名 諫早多良見 RC → 雲仙 諫早南 RC

・P.10 長谷川ガバナー補佐クラブ名 長崎 RC → 長崎琴海 RC

・P.20 「Rotary」誌購読料（英文）半期 12ドル（冊子版）→ 18ドル 6ドル（電子版）→ 9ドル

Re:discover the Value Omura

大村の価値再発見伝

20年ぶりの新紙幣発行と 大村市出身者との関わり

渋沢 栄一

一万円札の渋沢栄一とは、渡辺家、中でも石井筆子と関わりがありました。筆子が佐賀出身の亮一氏と再婚し経営した知的障害児の滝乃川学園において、2代目理事長・筆子の依頼で、第3代理事長には叔父渡辺昇の次男にあたる八郎が就任しました。渋沢栄一は、息女が筆子のフランス語教え子の関係にあり、この学園の第4代理事長に就任しています。



津田 梅子

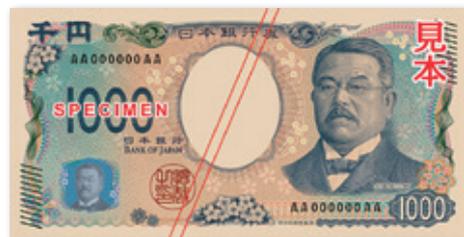
五千円札の津田梅子は、渡辺筆子と関係がありました。筆子は10歳年下の彼女を、女性解放や女子教育先駆者として行動を共にし、華族女子学校(現学習院大)において梅子は英語、筆子は仏語教えていました。



ふたりは一緒に明治22年(1888年)日本婦人教育界を創設。明治31年(1898年)には米国に派遣されます。石井筆子は、経営した私塾女子英語塾の建物と跡地を格安で梅子に譲ります。これが現津田塾大の前身になります。筆子は非常に美人で、当時のドイツ公使ベルツの日記によりますと、「鹿鳴館の華」と言われていました。

北里 柴三郎

千円札の北里柴三郎とは、長与専齋と関係がありました。長与専齋は、旧大村藩のご典医の子孫であり、日本の近代医学と医療制度を確立し、「衛生」という言葉をはじめて使用した人物です。長与専齋が内務省衛生局長という要職に当時就任しており、福沢諭吉の仲介にて北里伝染病研究所の設立を支援しています。



渡辺 清



渡辺 昇



長与専齋



石井筆子

写真:「渡辺 清」「渡辺 昇」「長与専齋」(大村市歴史資料館所蔵)
「石井筆子」(滝乃川学園所蔵)

新しい日本銀行券 ▶
特設サイト
国立印刷局



文責:大村ロータリークラブ 森本英敏
出典:「新札画像出典 財務省」

編集後記

毎日暑い日が続きますが、いかがお過ごしでしょうか?いよいよガバナー公式訪問がスタートしました。10月までの3か月間、2740地区55クラブの皆様どうぞ宜しくお願い致します。そしてこの度ガバナー月信の編集を担当するという貴重な機会を頂き、編集担当委員一同心より感謝申し上げます。ロータリーの輪を広げるために、また未来のロータリーの為に価値ある情報と魅力的なコンテンツを提供出来ますよう努めてまいります。

国際ロータリー第2740地区
ガバナー事務所

〒856-0832
長崎県大村市本町458番地2 中心市街地複合ビル1階
TEL0957-51-6439 FAX0957-51-7054
E-mail:ri2740ishizaka@octp-net.ne.jp



WEBサイト